



「分相応」に暮らす

新国 勇

いま、サステナビリティということばが、もてはやされている。日本語では、持続可能性という。近ごろは、政治家や企業までも口にするようになった。意味は、現代の世代のニーズをみたまながら、将来の世代のニーズをみたましていくということ。いかにも構えた難解な表現である。

サステナビリティが生まれた背景には、このまま世界じゅうの人口が増えつづけ、大量生産、大量消費、大量廃棄が繰り返されれば、宇宙船地球号に住んでいる人類の将来は破綻しかねないという危機感がある。すでに、二酸化炭素が増えたことで異常気象が頻発し、水害や干ばつが多発、ゲリラ豪雨やゲリラ豪雪、はてはスーパー台風まで発生するまでになった。居住地がうばわれ、農畜産物は減収する。さらに、多種多様な生物や生息地が失われることで、生物資源が地球上から消滅している。

いまこそサステナビリティを実践しないと、わたしたちの子孫はたいへんな苦勞をすることになるだろう。昨年、登録された只見ユネスコエコパークの最大の目的は、サス

テナビリティな社会をつくりあげることにある。

さあ、それではわたしたちは具体的に何をしたらいいのか。石油やガソリンなどの化石燃料は限りがあるので、調整しながら使う。海や川の魚は、回復できる量を確保しながら捕る。森林も、将来にわたって使えるくらいに伐採する。しかし、こんなことを一つひとつあげて行動するのは、むずかしい。

サステナビリティということばを、だれでもわかるように言い換えられないかと考えている。これは専門家や研究者はぜったいにしない。わたしは専門家ではないので、あえて挑戦してみたい。そこで、サステナビリティということばを「分相応に暮らす」ということばに代えて実践したらよいのではないかと考えている。「身の丈にあった生活」といってもよい。「腹八分目」ということばもある。ネットには、「もったいないという気持ちをもつ」というのもあった。

お金さえあれば、ほんとうに幸せなのか。幸せの感じかたは、人それぞれだが、分相応、身の丈、腹八分目を意識して、ささやかな満足に感謝しながら暮らしていくことが幸せにつながっていくのではないと思う。それらが積み重なってこそサステナビリティとなり、将来世代にわたって豊かに暮らす道しるべになるのではないかと考えている。

活動報告 (2014.1～2015.1)

2014

1/12 水鳥観察会 参加3名*

2/25 定例会 参加14名

①講座「カワウとどう付き合うか」講師：遠藤奈緒子さん(只見町ブナセンター)、②黒谷川の魚類調査報告、③講演会の打ち合わせ

3/8 第12回 只見の自然に学ぶ会「懐かしき茅葺き時代の南会津」

講師：佐藤勉さん 参加約50名*

3/15 月田農園へ雪遊び

参加10名*

3/25 定例会

①魚類調査報告、②座学「只見なんでも日本一」

5/18 バードウォッチング(寄岩林道)

参加5名*

4/6 ユビソヤナギ観察会

黒谷発電所周辺 参加7名

5/25 ビデオ上映会「只見のカジゴ焼き」(朝日振興センター)・定例会

6/21 総会 参加21名

11/14 定例会 参加12名

11/6 银山峠ハイキング 参加6名*

12/3 忘年会 参加25名*

2015

1/11 水鳥観察会 参加10名*

1/14 定例会 参加12名

カッコネエの「白神、屋久島世界遺産と佐渡島スギ天然林のありのままを報告します!」

植物モニタリング調査2014
要害山

5/3 参加7名

6/1 参加5名

9時過ぎにスキー場駐車場を出発し

14時半頃に只見高校裏に下山。ヒメ

サユリ開花約150株、タニウツギ、キバナイカリソウ、ヤマグルマ、ヤマツツジ、ガクヨウラクツツジ、ナナカマドなどが咲いてました。

7/13 参加5名

8/2 参加4名

9/7 参加3名

そろそろ紅葉が始まりました。ナナカマドが色づき始め、ツリフネソウが盛りでした。タムシバの実が赤く色づいてきれいでした。

10/5 参加5名

11/2 参加4名

ユビソヤナギ調査報告は10ページをご覧ください。

*のついている活動は6ページからの「会員からの只見自然情報」に報告を掲載しています。

植物モニタリング調査2013

「只見町青少年旅行村いこいの森」調査結果

高原 豊、高原郁子

只見町に自生する植物については、只見町教育委員会が1994年（平成6年）から2000年（平成12年）にかけて調査し、只見町文化財調査報告書第11集として平成16年に刊行された『会津只見の植物』があります。新潟植物同好じねんじょ会のすぐれた専門的スキルを有する方々による網羅的ですが素晴らしいものです。しかしながら、木々は年々生長し、それを雪崩がなぎ倒します。また、洪水は中洲に根付いた草木を根こそぎ流し去り土砂で埋め尽くします。その土砂の上にやがて草花が根付きます。自然は少しずつ、ときに大きく変わっていきます。草木も「あすこにっぺいあった」ものがいつの間にか見あたらなくなっていたりします。生えている植物がどう変わったかは継続的に調査しないと分かりません。

幸いなことに、環境省に「モニタリングサイト1000」(<http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/>)という事業があり、市民ボランティアでもできる動植物の継続的なモニタリング手法が公開されています。その手法を応用して、調査をすることにしました。1日で回れるコースを決めて、積雪がない時期に、毎月1回（原則として第1日曜日）数人で歩いて、蕾・花・実をつけている植物を見つけて名前を記録します。その場で種名が分からないものは標本を採り、持ち帰って同定します。シダ類は発見時に名前が分かるものだけ、同定が難しいイネ科、カヤツリグサ科、スゲ属、コケ類・栽培種は原則として調査対象外としました。

只見町青少年旅行村いこいの森は町内外からの利用者が多く、キャンプ場の草原、なだらかなコナラ林、急峻で亜高山帯のような尾根と変化に富んだ地形と植生があり、歩道・登山道が整備されており調査しやすいので、初年度（2013年）の調査地としました（図1）。毎月、今度はどんな花が見られるのか楽しみながら調査を行うことができました（表1）。

調査の結果、204種が確認され、日本海側に特有なものや保護したい植物は32種ありました（表2）。これらを花暦としてまとめましたが、その主なものを抜粋して掲載します（表3）。

オキナグサとギンランは只見町教育委員会の調査報告書に載っていません。キャンプ場裏（西側）の尾根は標高



調査のようす。見つけたものをその場で調査票に記録していく。



図1 只見町青少年旅行村いこいの森
2013年調査コース

— 調査コース

国土地理院地図(電子国土Web)を利用

表1 植物モニタリング調査2013 調査日

調査日	天候	人数	調査者氏名
5月12日	晴れ	3人	高原豊、高原郁子、猪狩資子*
6月8日	晴れ	5人	猪狩資子、首藤光太郎**、加藤沙織**、高原豊、高原郁子
7月15日	晴れ	6人	渡部和子、淵上麻衣子、新国勇、古川勝久、高原豊、高原郁子
8月10日	晴れ	7人	渡部和子、淵上麻衣子、鈴木早苗、首藤光太郎、高原豊、高原郁子、高原千絵
9月14日	晴れ	5人	渡部和子、朝廣貞子、首藤光太郎、高原豊、高原郁子
10月12日	雨	3人	渡部和子、高原豊、高原郁子
11月8日	曇り	4人	渡部和子、熊倉恵子、高原豊、高原郁子

* 福島大学客員研究員 ** 福島大学大学院

500～530mですが、登山道周辺にアカモノ、イワナシ、オオイワカガミの群落があります。尾瀬や吾妻連峰浄土平付近でないと見られないこれらの花を手軽に楽しめるのは只見ならではの宝です。また、オオツクバネウツギも多く、花期にはたくさんの花をつけるので見事です。これらの草木を皆さんに知っていただき、楽しんでもらうとともに、いつまでも残しておきたいと思います。確認した植物の花等の写真をフォトブックにして1部を只見町青少年旅行村に提供し、利用者に楽しんでもらうとともに啓発資料として活用してもらえればと思っています。

同じ手法で、2014年は要害山で調査を行い、結果をこれからとりまとめます。2015年はどこを調査するか思案中です。数年後にはまた、只見町青少年旅行村の同じコースで調査を行う予定です。

調査にあたって、福島大学大学院の首藤光太郎氏、加藤沙織氏、同客員研究員の猪狩資子氏、また、本会の渡部和子氏、瀧上麻衣子氏、鈴木早苗氏、朝廣貞子氏、古川勝久氏、熊倉恵子氏、新国勇氏にご協力をいただきました。皆さんのおかげで楽しく調査をすることができました。大変ありがとうございました。



急な登り道脇の崖に多いイワナシ。



保護したいオキナグサ。これは実です。



歩道を歩きながら見つけて記録する。



登山道脇の足下に咲くアカモノ。花は白いが実が赤い。



オオツクバネウツギは尾根筋に多い。



尾根筋に咲くオオイワカガミ。



5月、キャンプ場から裏山を望む(写真上)。6月、キャンプサイト一面に咲くウマノアシガタ(写真下)。



登山道脇に咲くホツツジ。長く咲いていました。



ミヤマガズミの実。春は白い花が楽しめます。



ササバギンラン。コナラ林内に多いが乱獲が心配。

表2 確認された特徴的な植物

No.	種名	科名	日本固有	特徴等
1	シュンラン	ラン科		園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
2	キタゴヨウ	マツ科	○	只見地域の独特の景観である「まつぞね」をつくる
3	オクチョウジザクラ	バラ科		本州の日本海側に生育
4	イワナシ	ツツジ科	○	北海道西南部と本州の主として日本海側の山地に生育
5	マルバマンサク	マンサク科	○	北海道奥尻島と本州の日本海側に生育
6	オオバクロモジ	クスノキ科		北海道の一部と東北地方、日本海側の山地に多い
7	ユキツバキ	ツバキ科	○	日本海側の雪の多い地域に生育
8	オオイワカガミ	イワウメ科	○	北海道南部から中部地方の日本海側に生育
9	アワガタケスマレ	スマレ科	○	新潟県粟ヶ岳周辺に生育
10	オキナグサ	キンポウゲ科		絶滅危惧Ⅱ類。園芸的採取の対象となるので保護に留意
11	キバナイカリソウ	メギ科		北海道の一部と本州の主として日本海側に生育
12	オオコメツツジ	ツツジ科		本州の主に日本海側に生育
13	シロバナニシキゴロモ	シソ科		北海道・本州・九州の主として日本海側に生育
14	トリガタハンショウヅル	キンポウゲ科		まれ。園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
15	ヤマトキシソウ	ラン科		県絶滅危惧Ⅱ類。園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
16	ユキグニミツバツツジ	ツツジ科	○	本州の主として日本海側に生育
17	ウラジロヨウラク	ツツジ科	○	園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
18	ガクウラジロヨウラク	ツツジ科	○	園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
19	オオバスノキ	ツツジ科		北海道・本州の主として日本海側に生育
20	オオツクバネウツギ	スイカズラ科		福島県が北限
21	ササバギンラン	ラン科		園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
22	ギンラン	ラン科		園芸的採取の対象となることがあるので保護に留意
23	ヒメサユリ	ユリ科	○	準絶滅危惧種。園芸的採取の対象となるので留意
24	ミヤマナラ	ブナ科		本州の雪崩れ斜面や亜高山に生育
25	トウギボウシ	クサスギカズラ科		うるい。日本海側に生育
26	コシジシモツケソウ	バラ科	○	日本海要素の植物
27	クモキリソウ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
28	ホナガクマヤナギ	クロウメモドキ科	○	本州の日本海側の山地に生育
29	オオバノトンボソウ	ラン科	○	園芸的採取の対象となるので保護に留意
30	ミヤマウズラ	ラン科		園芸的採取の対象となるので保護に留意
31	クロバナヒキオコン	シソ科	○	北海道と本州の日本海側に生育
32	タイリンヤマハッカ	シソ科		新潟県から東北南部の日本海側に生育

凡例

蕾
花
実
 注) 蕾(つぼみ)と花、花と実が同時に確認されたものは「花」として表示している。
 は日本海側に特有のものや、保護に留意すべき植物

表3 只見町青少年旅行村いこいの森 花暦(抜粋版)

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
キクザキイチゲ	花							タムシバ	花		実	実		実	
シュンラン	花							ユキツバキ	花			実	実		
ショウジョウバカマ	花							オオカメノキ	花				実		
キブシ	花							オオイワカガミ	花	花	実	実	実	実	実
ハウチワカエデ	花							センボンヤリ	花	花			実	実	実
オオヤマザクラ	花							タチツボスマレ	花			実			
オクチョウジザクラ	花	実						アワガタケスマレ	花	実	実				
イワナシ	花	実						アオイスミレ	花						
カタクリ	花	実						マキノスマレ	花						
マルバマンサク	花	実	実	実				ナガハシスマレ	花						
オオバクロモジ	花		実	実	実	実		オキナグサ		実					

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
キバナイカリソウ		実					
ミヤマガマズミ	蕾	花	実	実	実	実	実
オオコメツツジ	蕾	花	花	花	実	花	花
ヤマツツジ	蕾	花				花	花
ヒメジョオン		花	花	花			花
エゾタンポポ		花					
セイヨウタンポポ		花					
アリアケスミレ		花					
ウマノアシガタ		花					
ケアオダモ		花					
シロバナニシキゴロモ		花					
ハナニガナ		花					
ハルジオン		花					
トリガタハンショウヅル		花					
トキワハゼ		花					
ムラサキサギゴケ		花					
ヤマトキソウ		花					
ユキグニミツバツツジ		花					
ウラジロヨウラク		花					
ガクウラジロヨウラク		花					
クマイチゴ		花					
ツルアジサイ		花					
ヒメハギ		花					
ヒメヘビイチゴ		花					
ホウチャクソウ		花					
ミツバツチグリ		花					
オオバスノキ		花	実				
ツリバナ		花	実				
オオツクバネウツギ		花	実	実			
ギンラン		花					
ササバギンラン		花		実			
ヤマボウシ		花		実			
ナナカマドsp		花		実	実	実	実
ウスノキ		花			実		
ヒメサユリ		花	実	実	実		
タチシオデ		花	実	実	実	実	実
チゴユリ		花	実	実	実	実	実
タニウツギ		花	実	実	実	実	
アカモノ		花	実	実	実	実	実
ニガナ		花		花	実		
ツルアリドウシ			実		実	実	実
ナツハゼ			実	実	実		実
エゾアジサイ	蕾	花	実				
イチヤクソウ	蕾	花	実	実	実		
ノギラン	蕾	花	実	実	実	実	
トウギボウシ			花		実		
イワガラミ			花				
コシジシモツケソウ			花				
ノリウツギ			花				
イヌエンジュ			花				
クモキリソウ			花	実			

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
ドクダミ			花		実		
ムラサキシキブ			花	実		実	
オカトラノオ			花		実	実	実
トリアシショウマ			花	実	実	実	実
ホナガクマヤナギ		実	花	花			
ヤマユリ			蕾	実	実	実	実
オオバコ				花	実	実	実
オオウバユリ				花			
キツネノボタン				花	実		
ネジバナ				花		花	
オニドコロ				花			実
ヨツバヒヨドリ			蕾	花		実	花
リョウブ			蕾	花	実	実	実
オオバノトンボソウ				花			
オオヒヨドリバナ				花			
ヘクソカズラ				花			
ミズヒキ				花			
ユウガギク				花			
ミヤマウズラ				花	実		
アクシバ				花	実	実	実
クズ				花			
ボタンヅル				花			
ミヤマママコナ				花	花	花	実
オヤマボクチ			蕾	花			実
オトギリソウ				花	花	実	実
キンミズヒキ				花	実		実
ホツツジ				花	実	花	実
ツクサ				花	花		
ゲンノショウコ				花	花	実	
コウゾリナ				花	花		実
ヌスビトハギ				花	花	実	実
ツルリンドウ				花	花	実	実
オトコエシ			蕾	花	花	実	実
サジガクビソウ			蕾	蕾	実	実	実
マユミ					実		
クロバナヒキオコン					花		
ハナタデ					花		
メドハギ					花		
ヤブマメ					花		
ヤマハギ					花		
タイリンヤマハッカ					花	実	
クルマハハグマ			蕾	蕾	花	花	実
ゴマナ					花	花	
ノコンギク					花	花	花
コマユミ						実	
アキノキリンソウ					蕾	花	花
シロヨメナ						花	実
セイトカアワダチソウ						花	花
エゾリンドウ						花	花
アキノノゲシ							実

2013年調査 只見の自然に学ぶ会

会員からの只見自然情報

学ぶ会メーリングリスト(2014.1～2015.1)より

2014 1/1 初日の出と雪エクボ

あげまして、おめでとうございます。今朝は、えれえ天気よがったな。初日の出を撮っぺえど思ったら、あれま、雪エクボだんねえの。気温が上がって、雪面のあちこちにくぼみができだあなを、雪がエクボを作っただと見立でだあんだ。春つっあき(春先)によくでんがんだともな。正月早々、笑みが見らっちえ今年もいい年がも。イサム



1/13 水鳥観察会

ガンカモ類の調査は、天気晴朗なれど、鳥見えずでした。1月12日の調査日を基準として前後1週間以内でのカウント報告は可となっているので、1月7日の調査結果を報告します。

只見湖は、カルガモ88、マガモ12、コガモ43、ヨシガモ3、ホオジロガモ3、キンクロハジロ11、ホシハジロ23、スズガモ2の計8種、185羽でした。滝湖は、0羽。いずれも過去最低を記録。

豪雨災害から3年たっても、水鳥たちの生息地環境がもとに戻っていません。河畔域の植生、水底の水草、水生昆虫、魚類が洪水でリセットされたあと、まだ回復していないようです。その証拠に水生昆虫を食べるカワガラスや魚を食べるカワアイサやカワウがまったく見られません。ホシハジロが少ないのは、水草が洪水前の状態に回復していないのでしょう。もとに戻るには、まだまだ時間がかかるようです。

追伸:水鳥観察会では、鳥がさっぱり出なかつたんで、山の方ばっか見ったず



や。そしたら、木にずねえコブみでえあな、でぎったけ。よーく見たらサルだっけ。全部で8頭。木の上で丸くなってじっとしていっけ。親子は抱き合っていて、子

ザルはよく枝伝って動くっけな。ときどき、ホオノキの枝の皮をむしって食っては、むしゃむしゃかんでんが、そーだ栄養なんぞはあんめえな。風雪のなかのサルの様子ばっか見で楽しんできたぞや。イサム

1/18 オジロワシ情報

今週は大変寒い日が続き水道管破裂された家もあったようですが、雪は比較的少ないこの頃の只見町です。オジロワシの情報を頂き、お知らせいたします。伊南川から只見川合流点や只見湖の上空を、尾っぽが白く、嘴が黄色で大きなワシがいたらオジロワシですよ。見つけたらラッキー。山肌で大きな足跡見つけたら、たどって見てください、カモシカが食事してるかも。寒くても元気に観察楽しみましょう、冬は見る物いっぱいだよ。和子

1/29 おらいのセンサーカメラ

おらい(俺の家)の裏さ、でっけえ犬ぐれえもある足跡がついでいだ。キツネにしてはでっけえし、足跡も一直線とはいえねえなと思って、センサーカメラを仕掛けてみた。そしたら、こだでっけえキツネが写った。りっぱなキツネだ。このナメシ皮欲しー！イサム



2/1 雪虫めつけた〜

大雪で名の通ってる只見町入叶津で雪虫が出ています。全層雪崩も起きています。これって春なの？ 雪も少ないですよ〜。夢街道

2/1 雪小坊主

オジロワシ空振りの帰り路、只見小学校の門柱の上にへんな雪発見！学校さ向がって小坊主がお辞儀するように見えねえが。門柱の上さ、



たっぷり積もった冠雪が、きんなの雨風ときょうの気温のゆるみでこだ姿にしまったんだべな。鳥はでなくても、これだけでも面白っしえーぞやい(悔しまぎれ)。イサム

2/2 あらら…

今朝は、かた雪つぱいので自宅周りに降り積もった雪の上を散歩しながら、たまたま屋根を見たら穴が…。うちの屋根を突つく犯人はだんじゃべ？ キツツキとか、鳥だべなあ…。カナ

2/19 カワラヒワさえずる

キリキリ、ジーンって、朝からカワラヒワがさえずってんぞや。まだ2月だっちゅうのに今年はずすぎんなあ。今年の夏鳥、第1号。やっぱ浅雪で、春が近えのがな。イサム

3/8 盛況だった講演会

叶津番所において12回目の「只見の自然に学ぼう会」が開催されました。タイトルは「懐かしき茅葺き時代の南会津」、講師は『我が南会津』『白神山地』等の著者である佐藤勉さんです。当日は只見らしい大雪となりましたが、約50名の参加がありました。



学ぶ会会員以外に只見町民の方々、山関係の方々の参加もあり、予想以上の人出となりました。

どこからか寒い風が吹き込む番所の部屋にぎっしりと肩を寄せ合うように座り、昭和の薫りたっぷりな写真の数々を見ながらその時々エピソードを聞き、感心したり、笑ってしまったり、ほのぼのとした気持ちになりました。

引き続いての懇親会も旺盛な食欲と尽



きない話題で盛り上がり、アツと言う間に3時間30分が過ぎてしまいました。和やかで楽しい会になり、講師の佐藤さんも満足されたようです。 伊豆

3/15 月田農園訪問

月田農園へ雪遊びに行ってきました。参加者は10名です！ 集合場所の月田さん宅を9時30分頃出発し、クロカンやスノーシュー、カンジキをはいて月田農園を目指します。スノーモービルの跡がついていたので、カンジキなしでも歩けました。出発してからすぐに皆が集まって山の斜面を見ているなと思ったら、なんとカモシカがじっと動かずにこちらを観察しているようでした。負けじとこちらカメラを向けて撮影会です。顔と足が真っ黒でずいぶん濃い体色をしていました。

ミズメという木の樹皮を傷つけてにおいを嗅いだり（サロメチールのにおいがしました！）、木の芽につく虫の卵を探したり、自然観察をしながら途中で休憩をはさんで約2.5kmの道のりを歩きました。月田農園には、2時間30分ほどかかりました。

月田農園で昼食をとりつつ、飾ってあったノコギリやヨキ(斧)のお話を聞いたり楽しい時間を過ごしました。薪ストーブが暖かかったです。その後月田農園の裏山を散策しながらドングリの帽子を使った笛の吹き方を教わったり、何という木か忘れてしまいましたが、樹皮がアブラムシが排泄した糖分で黒く汚れている木を教えてもらいました。

帰り道もいろんな観察を行いながら16時に雪遊びは終了となりました。途中カモシカを見つけたところで、反対側の山の斜面を登る姿を発見！ 道の脇にはカモシカの落とし物がありました。木の芽を使った笛を教えてもらいましたが、月田さんのようにきれいな音は出せませんでした。 はる

3/19 シトド

川岸のソメイヨシノの枝にシトドが6羽止まってだっけ。集団でいるってごどは、まだ着いたばかりだべな。だんだん縄張り



作って「一筆啓上仕候(いっぴつぎじょうしこう)」って鳴くようになってっすな。シトドってのは只見の方言だ。詳しくは「会津只見の方言」を見でくんつえ(＊)。 イサム

3/28 荒野の中のK邸

いま、黒沢のKさんの家の周辺が面白っしえ景色になってっすや。田んぼの融雪を早めるため、バックホーで押し返しをしてくれんども、そのあとの雪のかたまりがゴロゴロしてんだずや。撮りかたによっては、こんな荒野の中の一軒家になっちもう。春先の楽しみの一ひとつだあ。 イサム



3/29 ツバメ初認

きょう午後4時、おらいの上空を2羽のツバメが鳴きながら飛んだずや。春が来たなあ。そして、午後6時20分、ジョウビタキ1羽、裏の栗の木に来る。冬がおわっちも一なあ。 イサム

4/17 福寿草が満開でした!

開花情報を教えてもらったので、フクジュソウの群生地に行ってきました！ 一面黄色の絨毯です。只見の春がどんどん広がっています。 はる



幸せの黄色の絨毯ほんとうにきれいでしたね！ カタクリやキクザキイチリンソウの紫と白の絨毯も広がってきました。日に日に色彩が増えて外を歩くのがとっても楽しいです。通勤路でもつついっ途中下車してしまうので通勤時間が普段より長くなっています。マイ

4/25 ルリタテハ

入叶津で見ました。なんという蝶で

しょうか。

夢街道



ルリタテハですね。羽根のふちに沿って太い青い筋が目立って、きれいですねー。林に住んでいて、成虫で越冬すること。入叶津の林も暖かくなって来たんですね。 ゆたぼん

5/18 バードウォッチング

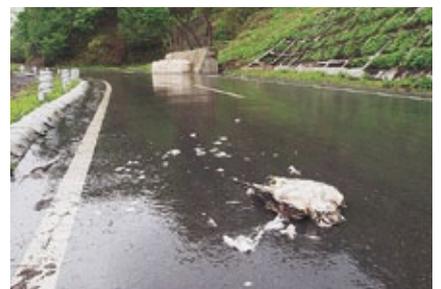
本日、確認した鳥さんです。オシドリ・カルガモ・カイツブリ・イカルチドリ・イソギ・トビ・サシバ・ノスリ・アカゲラ・モズ・ハシボソガラス・ツバメ・ヒヨドリ・ウグイス・クロツグミ・ヒタキ♀sp・カワラヒワ・ホオジロ・ノジコ。以上19種類。カイツブリの赤いほっぺがかわいかった。そして、林道わきの水たまりには、クロサンショウウオとトウホクサンショウウオの卵塊がいっぱい。ハコネサンショウウオの幼生も多かったな。参加者は5名でした。



ひっさびさに見たカイツブリです。水鳥が戻ってきたということは、水害後の生態系が復活してきた兆し。それにしても愛嬌のある顔です。 イサム

5/23 クマタカだんねえがや!

きょうのお昼、「宮淵地内の国道252号線上にでっけえ鳥が死んでんぞ」ってちゅう連絡が入ったんで、至急現場に直行したら、あれま、クマタカだんねえがや！ 外傷は見当たらなかったも、



*シトド=ホオジロ

カラスの奴めらに食わっちえ背中に穴開いでだっけ。んじゃども、絶滅危惧IBっていう絶滅寸前のレアな鳥が道路さ落ちてるってえのも、只見ならはだべな。見でえ人は、ブナセンターにおいであっから行って見でける。イサム

6/17 ホタル

黒沢集落内で13日、今年はじめのホタルを2頭見つけました。今日、同じく黒沢集落内を9時すぎにまわって見ましたが、9頭確認できました。両日とも夜はまだ寒いのでしょうか、水路わきの草むらにとまって光っているばかりで、飛んでいる姿は見えませんでした。たぶん、すべてゲンジです。手に取るとけっこう明るい光です。去年は少なかったの、今年は少し多くなるといいなと思います。クマ

7/1 ブナセンターの変形菌

ブナセンター玄関にある流木に変形菌が生えたということで行ってきたぞや。よくあるムラサキホコリの仲間で、幹からもしゃもしゃした子実体が2株出たぞや。別の場所に生えてだ1株はこれから子実体になる直前のやつ。明日あたりには胞子をまき散らすぞや。冬虫夏草といい、変形菌といい、面白っしえ生き物がいだもんだ。イサム



7/2 ヒメサユリ満開

浅草岳はヒメサユリが満開です。登頂途中にカッコウの鳴き声が聞こえました。和子



7/7 田んぼワカサギ

今朝、隣のYあんにゃから「家の下の田んぼに小魚がいつぱえ泳いでんだが、何ちゅう魚だべ」ちゅう電話があつたんで行って見できたぞや。そうしたらワカサギだったわや。50匹ぐれえの2~3の群れが田んぼの周囲を泳いでんねえがや。たぶん、田子倉ダムから流れできたあなが、只見用水を通して、この田んぼに入って、卵、産んだべな。田んぼの水の取り入れ口は、塩ビ管だったどもよく入ったもんだな。湖でなぐでも、こんな田んぼでも繁殖でぎんだなとたまげた次第。「田んぼワカサギ」で売り出さんにえがな。イサム



7/12 ホタル

Kさん、Eさん、Sさん、その他とホタルを見てきました。三ツ石神社前で、ヘイケ13。黒沢の田んぼで、ヘイケ26、ゲンジ7でした。ゆたぼん

8/7 アナグマ

夕方ホルンを吹く習慣になってから、毘沙沢に動物が近づかない気がしています。そんな中、数日前、林道を散歩？するアナグマ3匹と出会いました。親子だと思いますが、身体を寄せ合って仲良さそう。暑いのに毛皮をまとって……。車が50メートルほどの距離になると、そそくさと草の中に隠れました。毘沙沢



8/30 ヨタカのロードキル

ここは檜戸の国道。ヨタカのロードキルだぞや。近ごろめつきりいなくなっちゃった。夏の暑い夜、キョッキョッキョッと鳴く声は涼しさと郷愁を呼ぶ風物詩だったども、ホント声を聞がなくなつたな。夜、道路の上において車にひかれることが多く、昔はよくもらつたもんだ。こんだのあな（今度のもの）は、ぺしゃんこ状態。そんじえも羽は

残っでたら、ペリペリとはがしてブナセンターに持ってったぞや。イサム



9/3 高低差

今日、Facebookで毘沙沢の朝の風景写真を投稿したら、Jさんが、「入叶津より秋らしい、標高が高いからですね」という書き込みが入りました。果たして……と調べてみました。地図（只見町要図25,000）からの読み取りですが、毘沙沢550m、布沢・太田530m、塩ノ岐・間丸貝520m、黒谷・黒谷橋483m、入叶津412m、十島376mでした。ちなみに田子倉湖の駐車場あたりが516m。毘沙沢が田子倉湖の水面より高いようです。そしてこの町の現在の住居としては一番の高所ということが分りました。毘沙沢

9/8 十五夜

今夜は十五夜です。いづみ



10/6 サンコタケ

柴倉山の山道へんなキノコがあるということで行ってきただ。サンコタケだったぞや。近くで嗅ぐと、臭せー！ 見た目も匂いもミラクル！



オラ、こだあな(こんなもの)大好きだ。
イサム

10/9 真っ黒いヘビ

杉沢のヒロタテクノの工場内に真っ黒いヘビが忍び込んだちゅうことで、持ってぎてもらった。ヒバカリの赤ちゃんだべな。目がクリっとして愛くるしいかったぞや。おどなしいヘビだ

イサム



10/15 アトリ群舞

きょうはアトリがすごかったぞや！ジュウネン畑どか栗林どかの上手を大群で舞ってだぞや。電線に止まっど、数珠つなぎのようだった。興奮してシャッターをきりまぐった。だども、焦って、いい写真は撮れながった。この写真には180羽ぐれえ写っでだっけ。あしたも飛んでっぺがら、家の近くを見でみやれ。

イサム



10/24 てんとう虫

気持ちいい秋晴れで、紅葉を眺めにいったらてんとう虫がうじゃうじゃ、冬ごもりにナミプ



ラの下に潜りこんでました。黒いのやら赤いの、星の数も色々あるものです。今年は、くさむし(カメムシ)少な目な気がします。カメムシ少ないと雪が少ないっていうけど、本当なのかな。

こずえ

11/3 今年の積雪量は…

最近見つけましたが、背丈の低いピーマンの枝にカマキリの卵が産みつけられてました。よく、高いところに卵が産みつけられると大雪だとか聞きますが、今年は積雪量が少ないのかな？ 黒いカメムシもあまり見なかったなぁ…と。

カナ

入叶津もカメムシ少ないです。多い時は、カメムシのじゅうたんができます。今年は雪が少ないほうに賭けたい気がします。夢街道

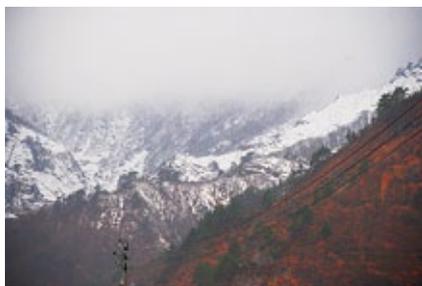
11/6 銀山峠ハイキング

銀山峠にハイキングに行きました。車2台で、柳津町軽井沢を目指しました。軽井沢集落からちよっと登ったところの小盆地に銀山跡があります。最盛期には1000人が住んでいたそうです。現在は廃屋1戸と夏の間だけ生活をしているような家が1戸ありました。かつての繁栄を物語っているのはレンガ造りの煙突です。上の部分は崩れていましたが、なかなか立派な煙突です。なんだか桃源郷のようなところでした。銀山峠は只見町小林から会津若松に至る銀山街道にある峠です。峠の頂上は眺めがよくありませんが、祠があるところから雪を抱いた飯豊山が眺められました。

天気にもまれ、最高のハイキングでした。信

11/14 雪空

浅草岳、すだれ岩まで雪がきています。3回もすだれに降らないとふもとは来ないと言われていますが、タイヤ交換はしてもらいました。夢街道



11/25 コハクチョウが来た

2時ころ、ひとつぶろまち湯の前の只見川でコハクチョウ2羽がくつろいでいました。このまま只見のどこかに居着くといいですが。クマ

12/3 忘年会～いがあったよ～

忘年会は盛り上がり過ぎて誰も帰ろうとしない楽しい会でした。雪の只見に雪が降らない珍しい年の瀬の熱い忘年会でした。会員のSさん宅の「農家レストラン」で自家製野菜の料理をてんこ盛りいただきました。新会員のOさん、筑前琵琶のプロでした。「那須与一」を全員でシーンとして聞き惚れました。



夢街道

2015 1/11 水鳥観察会

きょうの水鳥観察会は、参加者10名。確認種はつぎのとおりです。

【滝湖】コハクチョウ4、マガモ2、コガモ3、ホシハジロ6、キンクロハジロ7、ホオジロガモ1、カワアイサ2、計7種、25羽、番外カワガラス1

【只見湖】カンムリカイツブリ2、コガモ8、オカヨシガモ21、ホシハジロ31、キンクロハジロ46、ホオジロガモ2、オオバン14、計7種、124羽、番外ウミネコ1種類も個体数もたいへん少ないです。4年前の水害から水鳥が戻ってきていません。大水害だったので、いまだに生息環境が回復していないということだと思います。

ただし、オカヨシガモの群れは珍しいです。地味なカモですが、端麗な姿が好きです。オオバンは例年、萬代橋の下流にいます。今年はゴミ回収浮きの下流、左岸に集まっていました。ウミネコは、日本海から迷い込んだものです。みんなで見ていたので、恥ずかしがって着水しませんでした。

まち湯で、鳥合わせをして昼食後、解散しました。イサム



2014年 ユビソヤナギ調査報告

渡部 和子

3/10 参加2名

ユビソヤナギ開花の下見に行ってきました。黒沢から只見川と伊南川合流点まで、かんじきとクロカンで深雪ラッセル40分。つぼみをつけたユビソヤナギ28本にピンクテープをつけてきました。



ゆたぼん：黒沢のユビソヤナギ調査時の花穂（つぼみ）です。まだ咲いてはいませんでした。黒沢川の橋のためとでテンと思われる足跡も発見。あんなに歩くとは思っていませんでした。次回はかんじきでなくスキーで行こうと思います。

3/17 参加2名

櫛戸橋下流から小川橋までの右岸と左岸のユビソヤナギ38本にピンクテープを巻きました。今回も紛らわしい、あいの子ヤナギに悩まされ黄色テープを巻いてきました。

3/18 参加2名

朝日橋上流から荒島橋下流の右岸28本テープ巻きました。

3/22 参加2名

調査はクロカンで行いました。長浜上流から熊倉橋の左岸66本、右岸26本、杉沢林産裏の左岸24本にテープを巻きました。まだ積雪が多く開花してないので♂♀わからずナンバリングの開始は4月になりそうです。

3/24 参加1名

快晴で気持ちよく調査がはかどりました。熊倉橋～亀岡橋 左岸46本（半枯れ、枯死、幹折れが多かった）。亀岡橋～明和橋 左岸126本（大倉浄水場裏は幹回り40cm位のユビソヤナギが8割かと思われるほど密度が高かった）。

3/25 参加1名

熊倉橋上流～亀岡最上流までの右岸のみ、合計92本のテープ巻き。花粉がひどいらしく、くしゃみと目のウルウルに泣かされました。亀岡橋の上流のユビソヤナギも枯死、折れなどが多く見

られました。

3/28 参加1名

快晴。山里橋上流～和泉田入口までの左岸74本。五分咲きの開花でハナバチ(?)が群れて蜜を吸ってました。大きめのユビソヤナギ林の下流に幹回り20cmくらいの若木がまとまって23本育っており、世代交代か。

3/29 参加3名

ナンバリングテープ打ちと計測を始めました。伊南川、只見川合流点～櫛戸橋下流の右岸No.1～44、左岸No.45～50、開花前なので♂♀の確認のできないものが多い。

4/1 参加3名

快晴。午前中、朝日橋上流～荒島橋下流の右岸No.51～83。午後、大倉浄水場裏の左岸No.84～134。キクザキイチリンソウが開花、河原でトビ3羽がタヌキ(カモシカかも?)の肉をむさぼっていました。

4/3 参加2名

大倉浄水場裏、左岸No.135～211の76本。今日もひげ猫(雑種)に悩まされ、樹高が高く♂♀の同定が難しい(まだ花の咲き始めて落下してない)。雪の落とし穴に腰まで埋まること何度となく、とりあえずケガもなく笑うしかありません。今日の楽しみは、スズメバチの巣を恐る恐るゲット。

4/6 黒谷発電所周辺(ユビソヤナギ観察会) 参加7名

No.212～288。

4/8 参加2名

長浜上流～熊倉橋下流の左岸No.289～358の69本。今日はバードウォッチング日和、オシドリ5つがい、カワラヒワ、

セグロセキレイ、サシバ、ノスリ、そしてオツネトンボが見られました。

4/9 参加1名

杉沢林産裏～杉沢スノーシートまでの左岸No.359～411の52本。伊南川は豪雨災害後の水辺林が再生しはじめ、若木も多く見られますが、黒谷川は整然と石積みされた護岸工事がなされてしまい、自然のヤナギ林には戻れないことを、今さらと言われるかもしれませんが残念でなりません。

4/12 参加1名

黒谷川(阿弥陀堂橋～温谷沢出合)右岸No.412～429の17本。ウグイスの初鳴きを聞きました。雪崩も真つ盛りで地響きが聞こえる時もあります。堤防にフクジュソウやキクザキイチリンソウが目立つようになり春到来を感じます。

4/13 参加1名

荒井原右岸No.430～435。

4/14 参加1名

荒井原右岸No.436～452、杉沢スノーシート周辺No.453～479。

4/16 参加1名

山里橋下流No.480～496、二軒在家左岸No.497～500。

4/18 参加2名

二軒在家～和泉田スノーシート左岸No.501～579。明和橋下流左岸No.580～581、亀岡橋上流右岸No.593～615。

4/19 参加3名

亀岡橋下流左岸No.616～662、右岸No.663～707。亀岡サッカー場内No.708～709。花がやっと落ち始めたので♂♀の確認がしやすくなりました。カワアイサ、オシドリとコシノコバイモなどが観察されました。

11/24 参加5名

やっと入叶津の叶津川中洲のユビソヤナギ調査再開。No.767～812の46本。3年前の洪水の名残の堆積砂や、倒木や枯木などが多くみられました。



「只見の自然を楽しむ本」できました!

編集・発行：只見の自然に学ぶ会

A4変形、本文32ページ、オールカラー

会員の方には配布しましたが、まだ残部があります。

事務局へご連絡いただくか、学ぶ会のホームページ

(<http://www.fukosya.com/manabu>)からも申し込めますので、販売促進にご協力を。1冊送

料込み800円です。